

岡病防第 9号
平成21年 9月 1日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察予報第6号を下記のとおり発表したの送付します。

平成21年度病虫害発生予察予報第6号

平成21年 9月 1日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	穂いもち 紋 枯 病 白葉枯病 穂 枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	並 — — — — —	並 並 並 やや少 やや多 やや多
ダイズ	べと病 紫斑病 葉 焼 病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — — —	やや少 やや少 やや少 やや多 やや少
モモ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	— — やや遅	並 並 並
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	— — — —	やや多 やや少 並 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭 疽 病 うどんこ病	— — — —	やや多 やや少 やや少 やや少
トマト	疫 病 斑点細菌病 葉かび病	— — —	やや少 並 少
アブラナ 科野菜	アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ	— — — —	並 並 やや少 並
キク	ナミハダニ	—	やや少

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育はおおむね平年並である。

イ. 8月17～18日の巡回調査によると、南部地帯の葉いもちの発生圃場率は69.4%で、平年(52.8%)よりやや高かった。

ウ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、高温少雨条件は発病を抑制する要因である。

防除上の参考事項

ア. 本年は梅雨明けが平年より遅く、南部地帯の一部で葉いもちがやや多めに推移したことから、圃場をよく観察し、葉いもちが発生している圃場では穂いもちの防除を行う。

イ. 植物防疫情報第4号参照。

(2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月17～18日の巡回調査によると発生圃場率は51.1%で、平年(56.7%)並の発生であり、発病程度が高い圃場は認められなかった。

イ. イネの茎数は平年並である。

ウ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高いとされており、発病を助長する要因である。

(3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月17～18日の巡回調査では、平年どおり発生を認めなかった。

(4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月17～18日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は23.3%で、平年(38.2%)よりやや少なく、発病程度の高い圃場は認められなかった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされている。高温条件は発病を助長する要因となるが、少雨条件は発病を抑制する要因となる。

(5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 前年の発生量が平年よりもやや多かったため、種子の保菌率も平年よりもやや多いと考えられる。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされている。高温条件は発病を助長する要因となるが、少雨条件は発病を抑制する要因となる。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月1～5半旬の予察灯への飛来は津山市では0頭で平年(1.0頭)並に少なく、赤磐市では1頭で平年(5.3頭)より少なかった。

イ. 8月下旬における県予察圃場(赤磐市)での発生密度は0頭/株で平年(0頭/株)並であった。

ウ. 8月17～18日の巡回調査によると、県全域における発生圃場率は13.3%で平年(0.6%)より高かった。見取り調査による株当たり虫数は0.4頭と平年(0.03頭)より多かったが、成幼虫が10頭以上寄生している株は認められず、増殖率の高い短翅型雌成虫の発生密度は0.001頭/株と低かった。

エ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高いとされており、本虫の発生をやや助長する要因となる。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月17～18日の巡回調査では平年どおり発生を認めなかった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされている。少雨条件は発病を抑制する要因である。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月17～18日の巡回調査では平年どおり茎葉での発生を認めなかった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされている。少雨条件は発病を抑制する要因である。

(3) 葉焼病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月17～18日の巡回調査では、平年並の発生であった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされている。少雨条件は発病を抑制する要因である。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける8月1～5半旬の誘殺数は赤磐市で973頭と平年(1333.4頭)よりやや少なく、津山市で525頭と平年(647.6頭)並であった。

イ. 8月17日～18日の巡回調査によると、発生ほ場率は10.0%で平年(4.7%)より高かった。

ウ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の発生を助長する要因である。

エ. 植物防疫情報第5号参照。

(5) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1～5半旬の誘殺数は、アオクサカメムシは6頭で平年(10.9頭)より少なく、イチモンジカメムシは3頭で平年(17.9頭)より少なかった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高いとされており、本虫の発生をやや助長する要因である。

2. 果樹

(モモ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月1～5半旬の誘殺数は40頭で平年(33.0頭)並であった。

イ. 8月10日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は7.1%で平年(5.0%)並であった。

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月10日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は46.4%で平年(44.2%)並であり、被害程度が中程度以上のほ場率は7.1%で平年(17.7%)より低かった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の発生をやや助長する要因である。

(3) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 第2世代成虫の推定50%抱卵日は8月27日で平年(8月23日)よりやや遅い。

イ. 県予察圃場及び一般圃場における発生量は平年並であった。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場での発病葉率は44.0%で平成(42.8%)並である。

イ. 8月10日の巡回調査での発生はピオーネを中心に発生が認められ、発生量は平成よりやや多かった。

(2) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月10日の巡回調査によると、発生圃場率は73.3%で平成(73.0%)並であった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平成並または高く、降水量は平成より少ないとされており、高温少雨条件は発病を抑制する要因である。

(3) さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月8日の巡回調査では発生を認めなかった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平成並または高く、降水量は平成より少ないとされている。少雨条件は発病を助長する要因である。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 越冬幼虫による5～6月の被害枝の発生は平成並であった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると、発生量は平成より多かった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平成並か高く、降水量は平成より少ないとされており、高温少雨条件は発病を抑制する条件である。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると、発生量は平成よりやや少なかった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平成並か高く、降水量は平成より少ないとされている。高温条件は発病を助長する要因となるが、少雨条件は発病を抑制する要因となる。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると、発生量はやや少なかった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされている。高温条件は発病を助長する要因となるが、少雨条件は発病を抑制する要因となる。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされている。高温少雨条件は発病を抑制する要因である。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると、一般圃場における発生量は平年並であった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされている。高温少雨条件は発病を抑制する要因である。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると、一般圃場における発生量は平年並であった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされている。高温条件は発病を助長する要因となるが、少雨条件は発病を抑制する要因となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると、一般圃場における発生量は平年より少なかった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされている。高温条件は発病を助長する要因となるが、少雨条件は発病を抑制する要因となる。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

病虫害発生予察情報テレホンサービス

岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。

電話：０８６－９５５－２２２４

携帯電話用アドレスの公開

予報、注意報、警報については携帯電話用の情報（簡易版）を公開しています。

アドレスは

<http://www.pref.okayama.jp/norin/nousou/kei/top.htm>



QRコード